

1 尾鷲式サウナ製作プロジェクト

- 三重県南部地域活性化基金事業費補助金
交付申請・交付決定（10月1日）
- (株)ホークアイとの業務委託契約締結（10月1日）
- 座組構築及び構想(案)・コンセプトの決定
(10~12月)
- 記者会見の実施（1月8日）
- サウナ製作開始（1月23日）
- 試作第1号完成お披露目会の実施（2月25日）
- クラウドファンディングの開始（3月13日～）

2 COCORISM×OWASE

- 観光庁誘客多角化等のための魅力的な滞在コンテンツ造成実証事業採択（11月10日）
- (株)ホークアイとの業務委託契約締結（11月16日）
- 座組構築（11~12月）
- 記者会見の実施（1月8日）
- 事業者全体会議の開催（1月27日、2月3,10日）
- ヒーリングツアー実施（2月11~14日）
- 事業最終報告提出（3月1日）

3 スポーツ振興ゾーン関係

- スポーツ振興ゾーン整備関係
専門事業者、関係機関等の打合せ、近隣市町の
スポーツ施設の視察、意見交換など（随時）
- 築山整備関係
 - ✓ 県から浚渫土砂の提供（11月～）
 - ✓ 先進事例調査（随時）

4 環境省地域循環共生圏関係

- キックオフミーティングへの参加（7月2日・3日）
- ステークホルダーミーティングの開催（11月5日）
- 中間報告会への参加（12月7日）
- 伊勢志摩国立公園エコツーリズム推進協議会
情報交換会 登壇（12月8日）
- 最終成果報告会への参加（3月9日）

5 SNSを活用した情報発信

- SNSを活用した情報発信の強化（令和3年1月～）
 - ✓ LINE・Twitter・Instagram・Facebook・YouTube



【プロジェクトS主な活動内容①】

【三重県南部地域活性化基金事業 尾鷲式サウナ製作プロジェクト】

■ 実証事業

- 1 事業名：尾鷲式サウナ製作プロジェクト
- 2 概要：地域資源である尾鷲ヒノキ等を活用した「尾鷲式サウナ」を製作し、プライベートサウナの商品化・販売に繋げ、さらには、跡地へ施設サウナを誘致することで、サウナを通じた新たな誘客コンテンツの創造と林業振興を図る。
- 3 期間：令和2年10月1日(木)～継続実施中
- 4 事業者：(株)ホークアイ
- 5 座組：木材加工・提供 (尾鷲市林業振興協議会)
設計 (アトリエ ユイム)
製作 (地域おこし協力隊) ほか
- 6 その他：クラウドファンディング実施中(～5月5日)
※別添チラシ参照

■ 来年度以降の活動計画（予定） (令和3年度)

- ・クラウドファンディング実施継続
- ・試作品（最終版）完成（夏頃）
- ・尾鷲式プライベートサウナ商品化

（令和4年度以降）

- ・施設サウナ誘致



【観光庁誘客多角化実証事業 COCORISM×OWASE】

■ 実証事業

- 1 事業名：尾鷲固有の地域資源を活かした中長期滞在型ヒーリングプログラム開発事業
- 2 概要：with・afterコロナ時代を見据え、魅力的な滞在コンテンツの造成実証として、専門家監修の下、地域資源を活かした料理や体験プログラムを開発し、市内外事業者とともに観光客の市内全域への回遊を誘発するための中長期滞在型モニターツアーを実施した。
- 3 期間：令和3年2月11日(木)～14日(日) 3泊4日
- 4 事業者：(株)ホークアイ
- 5 参加者：4名(東京1・神奈川1・愛知2)+スタッフ4名
- 6 場所：伊勢・志摩～尾鷲
- 7 内容：別添「モニターツアー実施内容報告」参照

■ 来年度以降の活動計画（予定） (令和3年度)

- ・旅行代理店向けパッケージ検討
- ・地域の事業者連携の深化

（令和4年度）

- ・旅行代理店向けパッケージツアー販売
- ・個人旅行パッケージ開発
- ・広域連携の実施

（令和5年度）

- ・観光用ホテルの誘致



【プロジェクトS主な活動内容②】

【環境省地域循環共生圏関係】

内 容：ステークホルダー・ミーティング
目 的：おわせSEAモデル構想の取組紹介及びSDGs・地域循環共生圏への貢献性の解説、関係事業者からの意見を踏まえ、地域資源・価値の再発見に取り組み、プロジェクトの更なる推進とステージアップを目指す。

日 時：令和2年11月5日（木）13：30～16：30

参 加 者：35団体、76名

成 果：
 ■おわせSEAモデル構想の進捗状況の共有
 ✓各PJにおけるエリアプランと今後の取組
 ✓撤去工事の進捗状況
 ■構想実現に対する意見・課題の共有
 ✓津波浸水域
 ✓大都市商圏からの距離及び足元商圏人口の少なさ
 ✓中核となる事業主体・運営主体が見えない など
 ■課題解決に向けたアイデアの共有
 ✓地域資源の積極活用 (ex.海上釣り堀)
 ✓近隣市町と連携したバイオマスの熱利用
 ✓エネルギーの地産地消を軸とした個々のアイデアの結び付け
 ■今後のステークホルダーの巻き込みによる機運の醸成
 ■企業マッチングによる新たな事業の可能性



【企業誘致活動等】

4月	✓ 企業等との意見交換会（2社） ✓ 企業提案(1社)
5月	✓ 企業等との意見交換会（1社）
6月	✓ 企業等との意見交換会（3社） ✓ 企業提案（3社）
7月	✓ 企業等との意見交換会（13社） ✓ 専門家との集客の「核」に関する意見交換 ✓ 三重県知事と尾鷲市長の1対1対談
8月	✓ 企業等との意見交換会（4社）
9月	✓ 企業等との意見交換会（4社）
10月	✓ 企業等との意見交換会（3社）
11月	✓ ステークホルダーミーティング実施 ✓ 企業等との意見交換会（3社） ✓ 企業提案(1社)
2月	✓ 企業提案(1社) ✓ 専門家との集客の「核」に関する意見交換



【プロジェクトE 主な活動内容①】

【木質バイオマス発電事業】

■ 木質バイオマス燃料調達協議

- ✓ 4～11月 燃料調達協議
- ✓ 11月 燃料安定調達協定書を締結

■ 木質バイオマス発電事業化・排熱活用検討

- ✓ 4～11月 燃料調達可能な範囲での設備仕様、事業性検討
- ✓ 4～3月 排熱活用先行事例ヒアリング、バイオマスマーカほかとの打合せ

■ FIT申請（固定価格買取制度）対応

- ✓ 4～3月 FIT申請手続きほか打合せ、行政との協議
- ✓ 11月 FIT申請実施

【太陽光発電事業】

■ 太陽光発電事業化検討

- ✓ 10～3月 太陽光発電設備設置場所、仕様ほか検討

【企業誘致活動】

- ✓ 4～3月 エネルギー事業者との協議、現場視察対応



【プロジェクトE主な活動内容②】

【木質バイオマス発電事業】

燃料調達において、遠方からの燃料調達に頼らない地産地消を志向し、燃料調達の協議ならびに燃料調達可能量に応じた設備仕様への見直しなど、計画の具現化に向けた検討を進めた。

■ 木質バイオマス発電設備仕様（検討中）

仕 様：木質ガス発電

発電出力：450kW

敷地面積：約15,000m²

必要燃料：約5,000トン/年



■ FIT申請（固定価格買取制度）

2020/11末に申請済み

■ 今後のスケジュール（予定）

2023年度運転開始

■ 来年度の方針

2021年度に事業化決定を行い、詳細設計ならびに各種法令関係の申請手続きを進める。また、木質ガス発電からの未利用エネルギー（排熱・排ガス）を活用した新たなビジネスモデルの実現に向けた検討を行い、プロジェクトAと協働して企業誘致活動を行う。

【太陽光発電事業】

発電所の跡地活用において、導線的に有効活用が難しいスペースや遊休エリアを活用し、太陽光発電施設の具現化に向けた検討を進めた。

■ 太陽光発電設備仕様（検討中）

仕 様：太陽光パネル発電

発電出力：1,500kW程度

敷地面積：約20,000m²



■ FIT申請（固定価格買取制度）

申請に向け準備中

■ 今後のスケジュール（予定）

2022年度運転開始

■ 来年度の方針

2021年度に事業化決定を行い、詳細設計ならびに各種法令関係の申請手続きを進める。また、FIT活用による発電事業を計画しているが、オフグリッドでの電力供給について優位性が認められる場合には、隨時検討する。

【プロジェクトA主な活動内容①】

【海ぶどう陸上養殖事業の検討】

■ 実証試験 (三重県南部地域活性化基金事業)

期 間：5月20日～11月24日

場 所：三重県水産研究所尾鷲水産研究室

実施者：おわせSEAモデル協議会 PJ-A

　　アクア事業検討部会 海ぶどう研究会

目 的：尾鷲湾内水での海ぶどう養殖の可否
　　低温期（秋季）の成長性の確認

結 果：尾鷲湾内水での養殖は可能
　　水温が低下する11月の養殖は成長に難あり

見学会：7月21日 関係者・マスコミ向けに見学会実施

■ その他今年度の活動

- ・ FS調査・マーケティング調査
(三重県南部地域活性化基金事業)
- ・ 海ぶどうのレシピ開発



■ 来年度の活動

- ・ 発電所跡地の井戸海水を
用いた実証試験
- ・ 事業化に向け、関係者と
具体的な協議

【エビ陸上養殖事業の検討】

■ バイオロックテクノロジー (BFT) 基礎実験

(三重県南部地域活性化基金事業)

期 間：10月14日～12月22日

場 所：三重県水産研究所尾鷲水産研究室

実施者：おわせSEAモデル協議会 PJ-A

　　アクア事業検討部会 エビ研究会

目 的：BFTによるエビ類の飼育に関する基礎研究

結 果：昨年度の基礎実験の結果を受けて、装置の改
善や、有識者からの助言により生残率が飛躍
的に向上

■ 事業化に向けた課題点

- ・ エビ種苗の安定確保
- ・ BFTによる生産技術の確立

■ 来年度の活動

- ・ 国産バナメイによる
大型水槽でのBFT試験
- ・ 排熱利用システムの調査



【プロジェクトA主な活動内容②】

【すじ青のり陸上養殖事業の検討】

■ すじ青のり事業の調査

- ・すじ青のりの価格が高騰し、事業採算性が見込める
- ・陸上養殖技術がほぼ確立

■ 陸上養殖施設の視察及び意見交換

- ・(株)南伊勢マリンバイオの陸上養殖施設を視察
- ・養殖施設の規模や投資金額等の調査
- ・複数の事業者と意見交換を実施

■ 来年度の活動

- ・発電所跡地の井戸海水を用いた実証試験
- ・参画希望事業者と事業化に向けた協議



(株)南伊勢マリンバイオ視察風景

【アグリ事業の事例調査・研究】

■ アグリ事業に関する情報収集

(一部 環境省地域循環共生圏事業)

- ・三重県農林水産支援センター
- ・三重県農業研究所
- ・三重県農業研究所紀南果樹研究室
- ・(株)ウロ (農業ジャーナリスト)
- ・農林中央金庫

■ ヒアリング事業者

(一部 環境省地域循環共生圏事業)

- ・大手自動車機械メーカーのアグリ事業
- ・市内アグリ事業者
- ・県内南国フルーツ生産者
- ・県内農業種苗生産者
- ・国内コーヒー農園事業者



アテモヤ



コーヒーの実